



学校だより

平成31年 2月 1日
練馬区立田柄第二小学校
校長 谷田 弘子

HP <http://www.tagara2-e.nerima-tky.ed.jp> e-mail info@tagara2-e.nerima-tky.ed.jp

教育目標:元気な子ども・考える子ども・思いやる子ども

No.491

子育てを考える

副校長 横尾 康幸

インフルエンザの猛威が田二小にも到来し、都合6学級が閉鎖になりました。ひとまず山は越えたようですが、引き続き、お子さんの健康管理にご留意ください。

キレやすい子供が増えているということが言われて久しくたちます。キレてしまうのには様々な原因があるようですが、ある資料に、「キレやすい子供をキレさせないための方法」というものが載っていました。そこには、次のようなことが書かれていました。

①日頃から子供との距離に気を付ける

子供を「自分のもの」だと考えず、一線を引いて一人の人間として接する。子供が自発的に親との距離を縮めてくれるよう、親の方から上手に働きかけてみる。

②子供の自己肯定感を高める接し方を心がける

気に入らない部分があったとしても、まずは、ありのままの子供を受け入れる。

③子供の心をギリギリまで抑圧しない

子供の意思や希望を尊重し、ある程度の自由を認めてあげる。

④子供の話を根気よく聞く

根気よく子供の話を聞いて、キレてしまう子供の心理の理解に努める。

⑤トラブルは話合いで解決する姿勢を見せる

人と話す時やトラブルが起きた時、あきらめずに話し合う態度を子供に見せてあげる。

⑥親が辛抱するお手本を子供に見せる

親が乱暴な振る舞いや暴力を振るうことは、子供の悪い見本になるので絶対に行わない。

⑦小さな爆発は許してあげる

怒りをため込んで大きなキレを招かないよう、適度のガス抜きをしてあげる。ちょっとイライラしている時などに、強く叱りつけて突き放すようなことをしない。

⑧心の安定効果がある食べ物を日常の食事に取り入れる

カルシウムやマグネシウム、ビタミンDなどの心を安定させる栄養を摂取させる。

これら8点の方法は、何も「キレさせない」ためだけでなく、子供が健全に心を成長させていく上で、子育てのヒントになっているようにも思えます。

ある子供の脳の発達を研究している先生が、「親にとってのいい子は、実は本当はすごく困っている子だと思ってください。」という話をしていました。

どういうことかということ、「本来、子供は成長の過程で、いろいろな失敗をしたり、わがままな自我を出したりするもの。それら全てを親に受け止めてもらった上で、子供は反省したり、自信をもったりしながら成長していく。親の顔色ばかりをうかがって、自分の様々な感情を押し殺して、いい子を演じ続けていくことで、本来の子供の成長とは違った成長をしてしまう危険性がある。子供は親の持ちものではない。自分の子供を丸ごと受け止めながら、試行錯誤しながら子育てを進めていってほしい。」ということでした。

子育てには、正解はありません。悩むこともしばしばだと思いますが、今回、ご紹介した視点もご参考になさってみてください。